

2012年3月期 第1四半期決算説明資料

C r e a t i v i t y

I n n o v a t i o n

S o l u t i o n

2011年7月15日

C o n t e n t s



			【中古遊技機売買仲介事業】		
P2		・ 第 1 四半期 損益計算書（連結）	P10		・ 第 1 四半期 損益計算書
P3		・ 事業の種類別セグメント	P11		・ 第 1 四半期 取扱台数・手数料単価の推移
			【不動産事業】		
【広告事業】			P13		・ 第 1 四半期 損益計算書
P5		・ 第 1 四半期 損益計算書			
P6		・ 四半期売上高の推移			
P7		・ 品目別売上高の推移	P14		・ 第 1 四半期 連結貸借対照表
P8		・ 従業員の状況	P15		・ 2012年 3 月期 通期連結業績予想修正について

第1四半期 損益計算書(連結)



(単位:百万円)

	1Q累計期間	構成比	前年1Q累計期間	構成比	前年同期比
売上高	3,561	100.0%	5,072	100.0%	70.2%
営業利益	240	6.7%	505	10.0%	47.5%
経常利益	241	6.8%	509	10.0%	47.4%
純利益	238	6.7%	283	5.6%	84.0%

- ◆パチンコホール業界では、震災に伴う個人消費低迷の影響を受け、依然として厳しい状況が続いております。また、震災直後の営業時間短縮や、当面の全台入替自粛、広告活動自粛等の様々な要因により、ホール企業の経営環境は大きく変化しました。
- ◆こうした環境下、当社グループでは、主力の広告事業において、震災の影響が少なかった中部以西エリアにて人的資源を適切に配分し、営業活動を強化しましたが、東日本のホール企業を中心に広告自粛の影響が大きく、広告需要の消失を穴埋めするには至りませんでした。また、中古遊技機売買仲介事業においては、震災に伴う遊技機の新台販売延期、入替自粛等により取引が停滞しました。
- ◆結果、当第1四半期の売上高は**3,561百万円(前年同期比▲29.8%減)**、四半期純利益は**238百万円(同▲16.0%減)**となりました。

事業の種類別セグメント



当第1四半期連結累計期間

(単位: 百万円)

	広告事業 ゲンダイエージェンシー(株) (株)ジュリアジャパン	中古遊技機売買仲介事業 (株)バリュー・クエスト	不動産事業 (株)ランドサポート	調整額	連結
売上高	3,401	123	36	—	3,561
セグメント利益	327	▲2	14	▲99	240

前年同期比

(単位: 百万円)

	広告事業 ゲンダイエージェンシー(株) (株)ジュリアジャパン	中古遊技機売買仲介事業 (株)バリュー・クエスト	不動産事業 (株)ランドサポート	調整額	連結
売上高	▲1,439	▲63	▲9	—	▲1,511
セグメント利益	▲354	+51	▲9	+47	▲265

- ◆連結売上高は、主力の広告事業において、震災に伴う広告活動自粛による広告需要の急減や、中古遊技機売買仲介事業も新台販売延期や入替自粛の影響を受け、共に厳しい環境となり、売上高では▲1,511百万円の減収となりました。
- また、セグメント利益も▲265百万円の減益となりました。

広告事業

ゲンダイエージェンシー株式会社
株式会社ジュリアジャパン

第1四半期 損益計算書(広告事業)



(単位: 百万円)

広告事業	1Q累計期間	前年1Q累計期間	前年同期比
売上高	3,401	4,840	70.3%
営業費用	3,074	4,159	73.9%
セグメント利益	327	681	48.0%

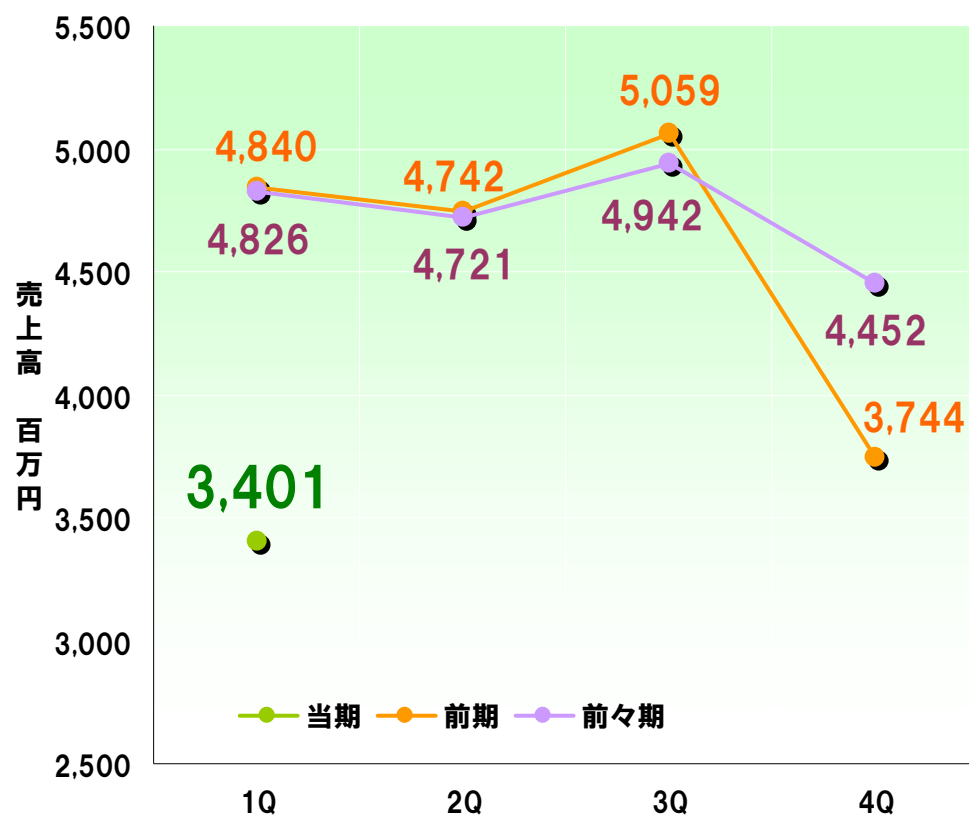
- ◆パチンコホール広告市場は、震災発生後のパチンコホール業界における当面の広告活動自粛の影響により、広告需要は急減しました。
- ◆広告事業における施策
 - ・震災の影響で業務停止を余儀なくされていた仙台営業所及び郡山営業所の早期回復をはかり、本年5月2日より業務を再開し、クライアントの復興を支援
 - ・広告需要の回復が早かった中部以西エリアにおいての営業活動を強化し、取引店舗数の増加に努めた
 - ・モバイル、ウェブといったプル型のメディアを利用した告知に注目し、パチンコホールモバイル告知ツール「Mobavia」をはじめとしたモバイル・ウェブサービスの拡充と拡販を積極的に推進
- ◆しかしながら、震災に伴う広告需要の急減の影響を埋め合わせるまでには至らず、**売上高は3,401百万円(前年同期比▲29.7%減)**、また、売上高減少に伴うマージン減少の影響により、**セグメント利益は327百万円(同▲52.0%減)**となりました。

四半期売上高の推移(広告事業)



(単位: 百万円)

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期計
当期	3,401	—	—	—	
前期	4,840	4,742	5,059	3,744	18,386
前々期	4,826	4,721	4,942	4,452	18,942



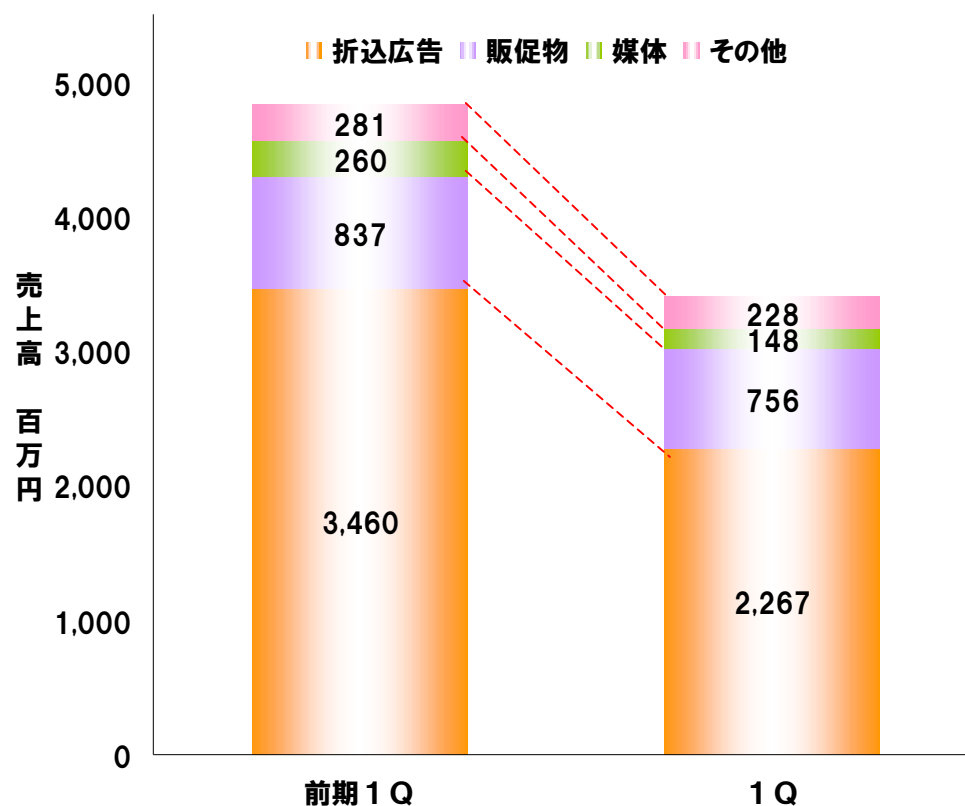
◆ 1Qにおいては震災に伴う広告自粛の影響が大きく、前年同期比で大幅に減少しております。

品目別売上高の推移(広告事業)



(単位: 百万円)

		1Q	構成比	前期1Q	構成比	前年同期比
売上高合計	折込広告	2,267	66.7%	3,460	71.5%	65.5%
	販促物	756	22.2%	837	17.3%	90.4%
	媒体	148	4.4%	260	5.4%	56.9%
	その他	228	6.7%	281	5.8%	81.0%
		3,401	100.0%	4,840	100.0%	70.3%

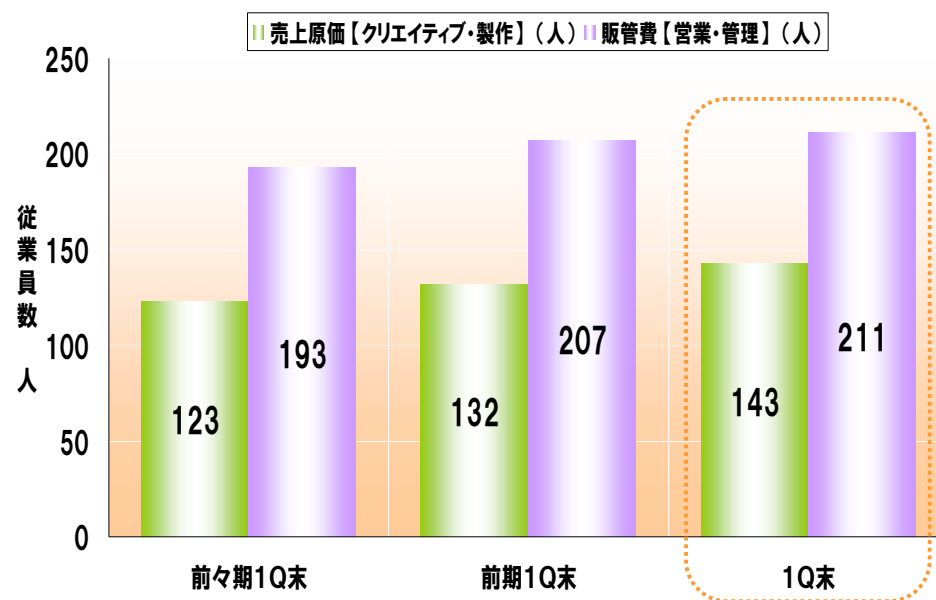


◆ 広告自粛の影響もあり、折込
広告は前年同期比で34.5%、
媒体は43.1%減少しております。

従業員の状況(広告事業)



	前々期1Q末	前期1Q末	1Q末
売上原価【クリエイティブ・製作】(人)	123	132	143
販管費【営業・管理】(人)	193	207	211
広告事業計(人)	316	339	354



- ◆ 2011年4月に15名の新卒採用をしております。
- ◆ 今期より連結の範囲に含めた、(株)ジュリアジャパンの従業員(14名)も含め、前期1Q末に比べ15名増加しております。

中古遊技機売買仲介事業

株式会社バリュー・クエスト

第1四半期 損益計算書(中古遊技機売買仲介事業)



(単位:百万円)

中古遊技機売買仲介事業	1Q累計期間	前年1Q累計期間	前年同期比
売上高	123	186	66.0%
営業費用	125	239	52.3%
セグメント利益又は損失(▲)	▲2	▲53	—

- ◆中古遊技機流通市場は、震災の影響で遊技機の新台販売延期や遊技機の入替自粛が行われたため、極めて低調に推移しました。
- ◆中古遊技機売買仲介事業における施策
 - ①会員制情報サービス「VQnet」における付加価値を高める施策
 - ・在庫管理システム「VQ在庫」の継続的な機能改善およびQRコードリーダーによる管理機能、資産管理機能などのオプションサービスを付加
 - ・より迅速な仲介を実現する取引フローの改善
 - ・中古遊技機配送を低価格で実現する運送サービスの提供
 - ②さらに厳しい環境下においても利益が確保できる収益構造の確立に向けた継続的なコスト削減を実施
- ◆しかしながら、中古遊技機売買の大幅な減少の影響を吸収しきれず、当第1四半期の成約台数は12千台(前年同期比▲42.4%減)、売上高は123百万円(同▲34.0%減)、となったものの、固定費削減効果によりセグメント利益は▲2百万円の損失(前年同期は▲53百万円の損失)となりました。

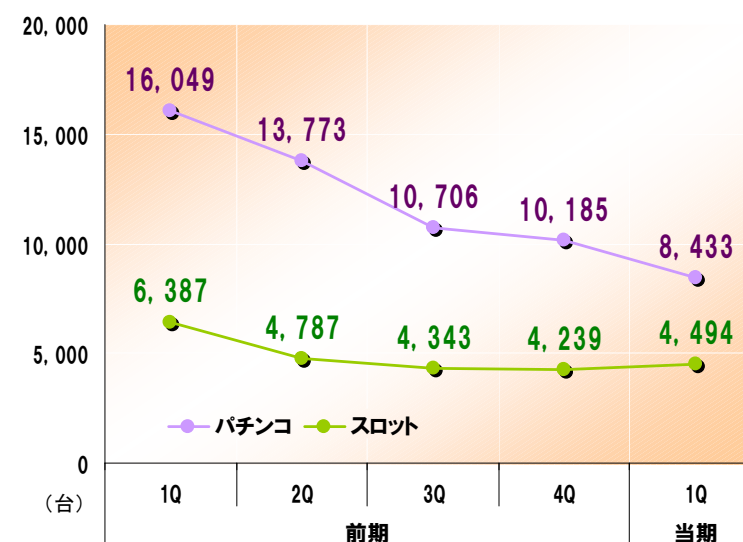
第1四半期 取扱台数・手数料単価の推移(中古遊技機売買仲介事業)



(単位: 台)

取扱台数	前期				当期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
パチンコ	16,049	13,773	10,706	10,185	8,433
スロット	6,387	4,787	4,343	4,239	4,494
合計	22,436	18,560	15,049	14,424	12,927

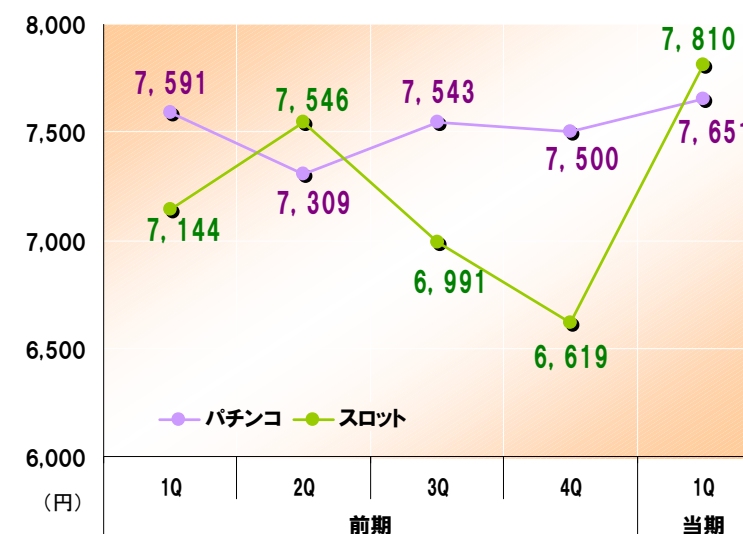
◆**取扱台数**: 当第1四半期は、震災の影響もあり、新台販売延期、入替自粛等も実施され、中古遊技機市場は低調に推移しました。



(単位: 円)

手数料単価	前期				当期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
パチンコ	7,591	7,309	7,543	7,500	7,651
スロット	7,144	7,546	6,991	6,619	7,810

◆**手数料単価**: パチンコ、スロット共に流通台数が減少した影響もあり、一部の人気機種が高価格帯で取引され、前年同期比では上昇しております。



不動産事業

株式会社ランドサポート

第1四半期 損益計算書(不動産事業)



(単位:百万円)

不動産事業	1Q累計期間	前年1Q累計期間	前年同期比
売上高	36	45	79.9%
営業費用	22	22	100.0%
セグメント利益	14	23	63.6%

- ◆当第1四半期においては、既契約で継続中の2件の賃貸案件以外で新規に成約した案件はありませんでした。
- その結果、売上高は36百万円(前年同期比▲20.1%減)となり、セグメント利益は14百万円(同▲36.4%減)となりました。

第1四半期 連結貸借対照表



(単位:百万円)

		前期末 (A)	1Q末 (B)	差額 (B)-(A)	
資産合計	現金及び預金	3,489	2,958	▲530	...①
	受取手形・売掛金	1,702	1,901	199	
	その他流動資産	504	567	63	
	有形固定資産	935	929	▲6	
	無形固定資産	237	227	▲10	
	投資その他資産	1,048	991	▲57	
		7,917	7,576	▲341	
負債・純資産合計	支払手形・買掛金	900	1,106	206	...④
	短期借入金	928	728	▲200	
	未払法人税等	202	26	▲176	
	中古遊技機売買取引顧客預り金	221	243	22	
	その他流動負債	211	358	147	
	長期借入金	513	457	▲56	
	その他固定負債	42	42	0	
	株主資本	4,545	4,514	▲31	
	その他	4	4	0	
	少数株主持分	346	93	▲252	
		7,917	7,576	▲341	

①納税、配当等により現金及び預金の減少(▲530百万円)

②短期借入金の減少(▲200百万円)

③未払法人税等の減少(▲176百万円)

④純資産合計は4,612百万円となり、前期末比▲283百万円の減少
～要因～

1) 四半期純利益238百万円

2) 期末配当▲260百万円

3) VQ社における剰余金の処分に伴う少数株主持分の減少▲252百万円

2012年3月期 通期連結業績予想修正について-1



- ◆当第1四半期累計期間における業績の進捗を勘案し、業績予想の見直しを行った結果、2012年3月期の連結業績予想(第2四半期累計および通期)を、下記のとおり修正します。

■2012年3月期第2四半期(累計)連結業績予想の修正(2011年4月1日～2011年9月30日)

(単位:百万円)

	2012年3月期 1Q実績	前回発表予想 ※2011年4月15日公表	進捗率	今回修正予想	増減額	増減率
売上高	3,561	6,400	55.6%	7,530	1,130	17.7%
営業利益	240	108	222.2%	538	430	398.1%
経常利益	241	100	241.0%	530	430	430.0%
当期純利益	238	60	396.7%	390	330	550.0%

■2012年3月期連結業績予想の修正(2011年4月1日～2012年3月31日)

(単位:百万円)

	2012年3月期 1Q実績	前回発表予想 ※2011年4月15日公表	進捗率	今回修正予想	増減額	増減率
売上高	3,561	14,600	24.4%	16,230	1,630	11.2%
営業利益	240	707	33.9%	1,307	600	84.9%
経常利益	241	700	34.4%	1,300	600	85.7%
当期純利益	238	400	59.5%	840	440	110.0%

2012年3月期 通期連結業績予想修正について-2



【売上高の修正理由】

広告事業セグメントにおける、主として、以下の2点の影響によるものです。

- 1) 直接的被害のあった仙台、郡山営業所の当社顧客における広告需要の大幅減少の見込みに対し、その後の需要回復が急激に進み、当初予想比を超過する見込み
- 2) 震災に伴う広告自粛の影響による需要の減少予想に対し、主に中部以西エリアにおける自粛解除が、当初想定より早かったことにより、当初予想比を超過する見込み

(単位:百万円)

	影響額の 当初暫定予想 (年間)	影響額の 今回修正予想 (年間)	第2四半期 累計期間の 増減額	通期の 増減額
(1) 当初暫定予想開示時点において、当社が影響額を試算するために仮定した、未確定事項				
① 直接的被害のあった仙台、郡山営業所の売上高減少	▲1,200	▲300	+400	+900
② 震災に伴う業界団体の取り決めによる広告自粛による売上高減少	▲1,600	▲3,000	+600	+600
③ 夏場の電力問題に起因するホール営業の変化と、その間接的な広告需要への影響がもたらす売上高減少	▲2,000	(※)	(※)	(※)
(2) その他の差異	—	—	+130	+130
合計	▲4,800	▲3,300	+1,130	+1,630

※当初暫定予想において区分していた(1)②及び③については、現時点においても、節電等を目的とした自粛活動の一環としての広告規制や自発的な広告出稿の抑制が見られる等、明確な区別が困難なことから、今回発表予想の算定に当たっては、一括で集計しております。

【営業利益、経常利益および(四半期)純利益の修正理由】

- 1) 広告事業セグメントにおける売上高の当初予想比超過に伴うマージンの超過見込み
- 2) デザイン業務の内製化等のコスト削減策を講じたこと等により、売上総利益が当初予想を超過する見込み

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の情報に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・IR窓口 経営企画部 Tel.03-5358-3334